

第1回推進会議における委員発言等をもとに整理した課題

(1) エコツーリズムの考え方の普及

エコツーリズムの考え方が、場を提供する地域、サービスを提供する事業者、ツアーに参加する一般消費者に対して幅広く知られていない。エコツーリズムを広めるために、エコツーリズムの基本的な考え方を提唱することが必要である。

(2) 広報活動による消費者の意識改革

環境に配慮した観光行動を普及させるために、業界単位では一般消費者の啓発を目的とした広報活動を行っているが、効果が限定的である。エコツーリズム推進のための大規模なキャンペーンが必要である。

(3) 一般的な旅行者のエコツアーへの誘導

エコツアーの裾野を広げ、環境に対する意識を啓発していくために、バスツアーなどの団体旅行にもエコツアーを組み込んでいくことが重要である。また、低額なエコツアーを提供するなどによって、エコツアーの垣根を低くし、一般の旅行者や子供が気軽にエコツアーに参加できるようにしていくことが必要である。

(4) エコツアー情報の提供

エコツアーに興味を持つ人が、各自のニーズに応じたエコツアーを選択することができるように、ツアーのコンセプトや体験内容、服装や持ち物、必要となる体力レベルなどのツアー情報が掲載され、複数のツアーが比較検討できる仕組みが必要である。さらに、エコツアーへの参加経験が少ない人であっても、安心してツアーに参加できるように、優良なツアーを推奨する仕組みの構築が望まれる。

(5) 原生的な自然を活用したエコツアーの実施拡大

原生的な自然地域に存する資源は、その姿を見るだけの旅行者にも大きな感動を及ぼす力がある。自然に対する興味や理解を幅広く促進するために、国立公園などでは保護すべきエリアの徹底管理に加えて、資源調査に基づく利用エリアの拡大や、エコツアーの場にふさわしいエリアでは種々の制約の緩和が望まれる。

(6) 身近な自然を活用したエコツアーの実施拡大

自然度の高い地域でより効果的な体験ができるように、また、自然地域への人の集中を避けるという視点から、エコツアー初心者が里地や里山をはじめとする身近な自然でエコツアーを日常的に体験できるような場所の整備と管理が必要である。

(7) 教育目的での取り組みの促進

教育的な視点から、日常的な授業や総合的学習の時間を活用した環境学習や、修学旅行における自然体験を推進するために、教育目的で参加することができるエコツーリズムの場の整備と総合的なプログラムの拡充が必要である。

(8) ガイドの質的な向上

エコツアーガイドの質が不揃いであり、中には参加者に満足感を提供できないような低レベルのガイドも存在する。一部地域では、悪質なガイドが便乗商売的に参入し、自然に悪影響をもたらしている。自然の保全、消費者の保護、そして市場の健全な成長という観点から、ガイドの質の向上が必要である。

(9) ガイド業の事業化促進

若年層が自然をフィールドにした仕事ができるような雇用の場作りが必要だが、わが国では、ガイド事業のみで採算がとれるだけの市場が十分に形成されてはいない。地域の状況に応じて、宿泊事業との連携、ツアーオペレーター業の展開も踏まえたビジネスモデルの確立が必要である。

(10) 事業実施に関連する規制の緩和

地域の素材を存分に活用した魅力的なエコツアープログラムとするためには、宿泊箇所としての民家の活用、地場産品を材料とした料理のフィールドでの調理、ワゴン車などを利用した効率的な移動などが効果的である。このためエコツアー事業者には各種資格の取得や業者登録などが必要となるが、取り組みが不十分なケースが多い。魅力的なエコツアーを増やすために、ノウハウや資金の充実とともに、関連する規制の緩和が求められている。

(11) エコツーリズムによる地域経済の活性化

エコツアー客による地域経済への貢献がさらに高まり、効果が広がるように、来訪者の消費が地域経済にどのように波及しているのかを明らかにするとともに、地域内のエコツーリズム推進事業者を奨励するなどによって、地域経済の活性化が十分に果たされるようにすることが必要である。

(12) 住民参加型の地域振興

住民が地域の自然や文化に誇りをもつようになるためにも、地域住民も加わったエコツアープログラムの展開が望ましい。また、地域の誘客力の向上には、多くの住民が来訪者をもてなす意識をもち、さらに街並み景観や生活環境などにも配慮するなど総合的な地域整備が望まれる。

(13) 個性的な地域景観など地域資源の育成と持続的管理

エコツーリズムにおいては地域の自然環境と地域の産業や暮らしなど人々の営みとの関わりが形成してきた個性的な景観や地域の生活様式が、多くの旅行者を引きつける重要な資源となる。エコツーリズムを持続させていくため、景観や資源の維持と管理が重要である。

(14) 環境の保護管理

エコツーリズムに先進的に取り組む自然豊かな地域へは、多くの観光客が訪れるようになり、経済面や意識面での効果が発揮されてきたが、ゴミやし尿処理、道路状態の悪化などの問題も生じており、対象地域の経済力だけでは環境を維持するのは困難になっている。また、環境維持のためには、継続的な調査や、環境保全のための種々の取り組みが必要であり、エコツーリズムに取り組む地域や事業者には多大な努力が必要となっている。